

## 第 129 回 ITER 機構職員公募説明会 開催報告

### 1. 日時

令和 3 年 3 月 9 日(火)～ 3 月 11 日(木)

### 2. 場所

令和 3 年電気学会全国大会オンライン展示会 Web サイト内

### 3. 概要

オンラインで開催された令和 3 年電気学会全国大会オンライン展示会の Web サイト内において展示を行い、出展者ページに ITER 計画に関するパンフレット、動画等を掲載した。また、出展者プレゼンテーションを実施し、ITER 計画の紹介、進捗状況、ITER 機構職員公募の説明を行った。

<ご参考:掲載内容>

ITER 計画パンフレット等

[https://www.fusion.qst.go.jp/ITER/comic/page1\\_1.html](https://www.fusion.qst.go.jp/ITER/comic/page1_1.html)

ITER ビデオライブラリー

[https://www.fusion.qst.go.jp/ITER/iter/page1\\_22.html](https://www.fusion.qst.go.jp/ITER/iter/page1_22.html)

ITER 公募案内

<https://www.fusion.qst.go.jp/ITER/staff/jobs.html>

### 4. 出展者プレゼンテーション

- ・ 視聴者数:約 70 名
- ・ Q&A

Q:核融合研究において、世界と日本の最先端の動きに差はありますか？

A:日本は従来、核融合研究の最先端を牽引しており、現在は世界 30 か国以上と協力して ITER の建設を進めています。また、日本では ITER を補完する研究を独自に行うため、JT-60SA を建設し、さらに研究を進めます。

Q:核融合燃料は DT(重水素・トリチウム)以外に考えていますか？

A:地球上で核融合反応を起こすには DT の組み合わせが最適だとされています。原理的には他の燃料でも核融合を起こすことは可能ですが、現在の技術ではエネルギーの取り出しが難しいため、DT 燃料を使用します。なお、ITER の運転開始は 2025 年ですが、DT 燃料を使用した本格的な実験は 2035 年から開始を予定しています。



プレゼンテーションの様子